

奈良医大 Nara Medical University newsletter

キャンパスだより

2022
vol.12

奈良県立医科大学に関する様々な情報を、地域のみなさまにお届けします



Topics

- ・新キャンパス整備の取り組みについて
- ・難病克服支援MBT映画祭を開催しました
- ・各診療科の紹介〈がんゲノム・腫瘍内科〉
- ・かかりつけ医をもちましょう

お知らせ

- ・医療の未来へまっすぐに。未来への飛躍基金

新キャンパス整備の取り組みについて

【令和3年度の動き】

1・造成工事

令和元年度から行っていた埋蔵文化財発掘調査が概ね完了し、令和3年10月から、造成工事に着手しました。

造成工事では、土砂の搬入、整地、外構、道路工事などを行い、令和5年度に造成工事の完了を予定しています。

令和3年度から4年度にかけて、敷地内にある農業用水路の移設工事や市道の整備工事を行います。

2・建物の実施設計

令和2年度にとりまとめた基本設計に基づき、歴史的な景観や、畝傍山への眺望など周辺の自然環境に配慮しながら、実施設計を進めています。建物には、日本最初の都城である藤原京をモチーフとした、古都奈良に相応しい景観を形成するようなデザインを取り入れています。

令和3年度末をもって実施設計を取りまとめる予定です。

【令和4年度の予定】

建築工事

令和3年度末にとりまとめた実施設計に基づき、令和4年度から建築工事に着手します。工事期間は約3年、令和6年度中の完了を予定しています。

建築面積は約16,000㎡、延べ面積は約30,000㎡の地上3階の建物になる予定です。

工事期間中は、近隣の皆様や区域内を通行される皆様に対する安全を確保するとともに、騒音・振動に配慮し工事を進めて参ります。何かとご迷惑をお掛け致しますが、皆様のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



新キャンパス航空写真



新キャンパスイメージ

NEW CAMPUS IMAGE



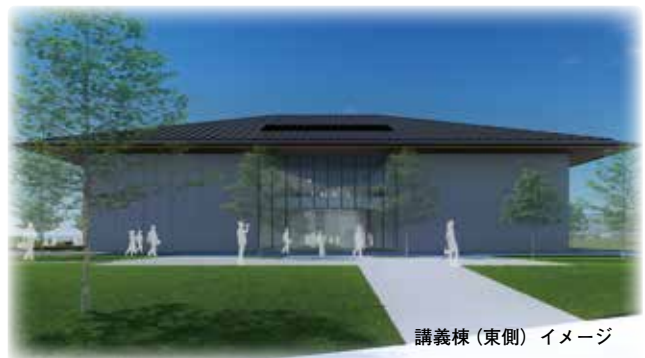
講堂図書棟と前庭 イメージ



講堂図書棟 内部イメージ



実習研究棟 内部イメージ



講義棟（東側）イメージ



講義棟（南側）イメージ

新キャンパス先行整備スケジュール

		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度以降
整備工事	造成	予備設計	詳細設計		開発造成工事			▼新キャンパス 先行整備 竣工予定
	建築		基本設計	実施設計	建築工事			

難病克服支援MBT映画祭を開催しました

現在MBT^{*}では希少な疾患故に社会から放置されがちな難病やそれに苦しむ患者さんの苦境を多くの方々にご理解いただくための啓発活動として「MBT難病克服キャンペーン」を2021年5月から推進しています。このたびキャンペーンの一環として、難病などに立ち向かう方々を応援し勇気づけるような映像作品を全国から募集し上映する「難病克服支援MBT映画祭」を1月8日（土）橿原文化会館で開催いたしました。

『みんなで守るいのち』をテーマに、難病などを克服した患者さんや家族の経験などを描いた映像作品を昨年10月より2ヶ月間全国から募集し、48本の作品が集まりました。映画祭当日は、この日から10本を入賞作品として上映し、この日の最終審査で最優秀作品等を決めました。



開会の挨拶を行う細井理事長



本学学生の作品の特別上映

当日は、開会に先立ち主催者を代表して細井裕司理事長から、「本映画祭は初の試みでしたが、全国から『みんなで守るいのち』のテーマにふさわしい48本もの作品応募があり、本日の上映と最終審査が楽しみです。」との挨拶がありました。最優秀作品等の審査は、2018年野村萬斎氏が主演を務めた『花戦さ』で第41回日本アカデミー賞優秀監督賞を受賞されました篠原哲雄監督を審査委員長に迎え、映画監督のとしおかたかお氏、西尾孔志氏、難病の患者会代表の織田友里子氏、本学脳神経内科学 杉江和馬

教授、医療安全推進室 辰巳満俊病院教授、橋口智子看護部長が審査委員として、それぞれの専門の視点から審査を行いました。最優秀賞には、車椅子の女性の日常を描いた「バリアフルライフ」が選ばれ、作品代表者の山村もみ夫。さんは「第1回目の映画祭で最優秀作品賞を受賞させていただき大変光栄です。」と歓喜の想いを述べられています。その他の受賞作品は次頁のとおりです。



審査委員と入賞者たちの記念撮影

最終審査結果

賞名	タイトル	作品監督名
最優秀賞	バリアフルライフ	山村もみ夫。
優秀賞	文字盤の先に	木寺智裕
特別賞	パンにジャムをぬること それでも、洗う	大塚菜々穂 寺谷千穂

また、今回の映画祭のため本学医学科5年生の中前和さんらは西尾監督の支援のもと、自分たちで初めての映画を作成しました。パーキンソン病やALSの患者さんが、趣味のボウリングに再び挑戦する姿や車椅子でダンスを行う姿を通じて「豊かに生きる」とは何か」を問いかけた作品に仕上げ、映



監督達による最終審査の様子



トークセッションを行う監督と入賞者

画祭の中で特別上映を行いました。その他映画祭では篠原哲雄監督、としおかたかお監督、西尾孔志監督および入賞者10名と中前さんによるトークセッションも行い、西尾監督進行のもと、入賞者の方々が今回の応募作品に対する熱い想いを述べられました。

プログラムの最後には、招待作品として篠原監督が獣医学部に実在したサークル「犬部」を基に描いた最新作「犬部！」を会場内で上映し、別室では監督3名と入賞者たちによる交流会を行いました。

映画祭には、報道関係者も高い関心を持っていただき、テレビ局のカメラや新聞記者が入り、当日の様子はニュース番組や各



交流会の様子

新聞で報道されました。

MBTでは今回の映画祭を皮切りに、今後も映画作品を通じて難病克服に向けた社会啓発活動を推進していく予定で、その第一段として、3月19日(土)に関西文化芸術研究都市で毎月開催の映画劇場に今回の映画祭で集まった作品数本の無料上映を予定しています。更には関西、全国各地で実施されている種々の映画祭とも連携して無料上映を企画していきます。今回の映画祭を皮切りに「MBT難病克服キャンペーン」を盛り上げていきますので、応援のほどよろしくお願いいたします。

※MBT (medicine - based town: 医学を基礎とするまちづくり)

各診療科の紹介〈がんゲノム・腫瘍内科〉

がんゲノム・腫瘍内科は外来化学療法室を運営する中央部門であった腫瘍センターを前身として2020年10月に設立されました。2021年4月には武田真幸教授が赴任され、新体制としてスタートしました。

近年、がん薬物療法の発展は著しく、従来の殺細胞薬といわれるものから分子標的治療薬、免疫チェックポイント阻害薬などたくさんの新薬が開発されています。またそれに伴い、がんの薬物療法を受ける患者さんの生存期間は年々延長しています。一方で、抗がん剤の選択肢が増えてがん薬物療法が複雑かつ多様になってきたことで、それぞれの治療を熟知しどのように使い分けるか、また様々な副作用をいかに予防し、軽減するかということにも大きな焦点が当たようになってきました。このため「肺がん」や「大腸がん」など臓器の枠組みを超えて、臓器横断的に対応できる診療科が必要です。そこで期待されるのが腫瘍内科です。腫瘍内科医はがん薬物療法のスペシャリストとして、安心、安全で効果的ながん薬物療法を提供するだけでなく、それぞれの患者さんの価値観に寄り添い、がんを抱えながらもその人らしい人生を歩んでいただくお手伝いをします。これには医師だけでなく、看護師や薬剤師、また医療ソーシャルワーカーなどたくさんの方の職種がチーム

となって患者さんを支えることが必要です。外来化学療法室では、これらの職種が密に連携を取り合い、それぞれの専門性を生かして日々活躍しています。奈良県立医科大学附属病院は都道府県がん診療連携拠点病院にも指定されており、奈良県内のがん診療に携わる病院とも連携を取り合いながら、医療チーム向けの研修会を開催するなどチーム医療の推進に取り組んでいます。



また近年、がんゲノム医療が注目されるようになってきました。がんゲノム医療とは、たくさんの方の抗がん剤の中からがん細胞が持つ遺伝子変異に合わせて薬剤を選択し、より効きそうなお薬を届けるというものです。2019年に初めて保険適用になったまだまだ新しい方法ですが、奈良県立医科大学がんゲノム・腫瘍内科では、がんゲノム医療連携病院として年間100例を超えるゲノム検査を行い、他病院からゲノム検査を希望される患者さんも広く受け入れています。今後はがんゲノム医療連携病院を目指し、さらなるゲノム医療の普及、推進に取り組んで参ります。がんゲノム検査を希望される場合は、かかりつけ医を通じて当院地域医療連携室までご連絡ください。



奈良県チーム医療研修会(2019年)の様子。
県内の病院からがんに関わる医師、看護師、薬剤師、ソーシャルワーカーでチームとなって患者さんを支えるべく毎年研修会を開催しています。

かかりつけ医をもちましよう

地域医療連携室では、奈良医大と『かかりつけ医』との橋渡しの窓口として「初診紹介予約」の受付、「連携登録医制度」の運用、「講演会の開催」や「広報誌発行」などの医療情報発信をおこなっています。

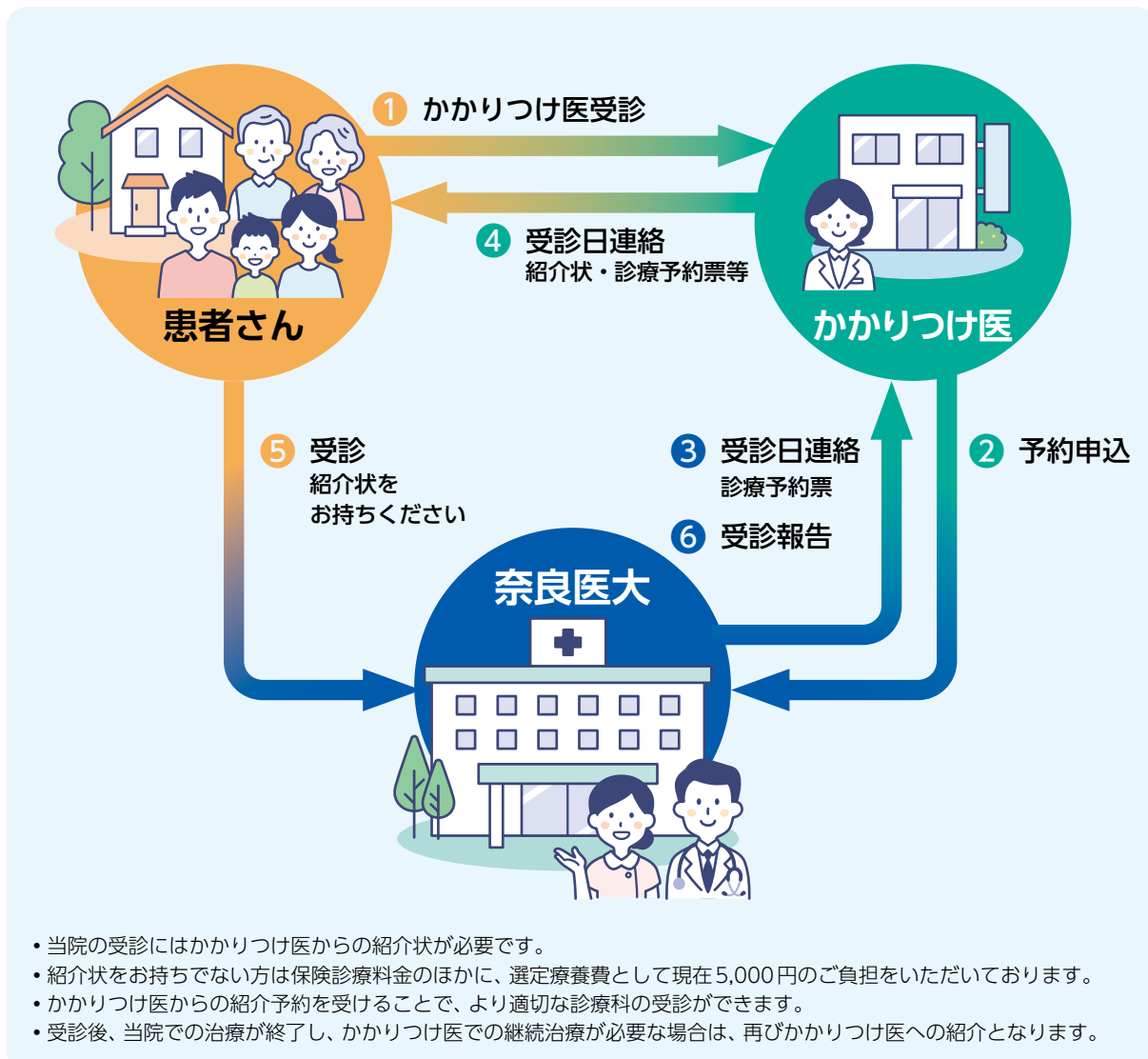
『かかりつけ医』とは、日頃から健康について相談でき、病気になったときは初期の医療を行う地域の診療所や医院の医師のことです。かかりつけ医は普段の状態やこれまでの病歴など、多くの情報を持っているため、患者さんに合った適切な医療機関を紹介することができます。

さらに、当院での治療終了後は受診報告が行なわれることから、患者さんは従来どおり、安心してかかりつけ医に健康管理を任せることができます。このように、かかりつけ医と病院の役割体制が地域内において確立されることで、治療効果や患者サービスの向上につながります。

奈良医大は特定機能病院として、専門性の高い医療を提供することを担っており、かかりつけ医からの紹介を受けて予約診療いただくことを原則としています。

かかりつけ医をおもちでない方は、奈良医大のホームページに当院と協力体制をとっている『連携登録医一覧』をご覧ください。

奈良医大受診までの流れ



医療の未来へまっすぐに。 未来への飛躍基金

未来への飛躍基金は、本学における教育、研究、診療の一層の充実を図るとともに、社会貢献及び国際交流を支援することにより、本学の「未来への飛躍」を着実に進めることを目的としています。

活用事業

- ・教育・研究及び診療活動への支援
- ・大学及び附属病院の施設整備
- ・大学と社会とのつながりへの支援 等



活動内容

- ・医学科、看護学科学生への研修費用の助成
- ・大学院入学者への奨学金
- ・クラブ活動への助成
- ・高度シミュレータの購入
- ・地域の健康イベントへの助成 など



**「最高の医療」を提供し続けるために、
より良い「学び」の環境を！ 未来への飛躍基金では
頑張る医療従事者を応援しています。**



飛躍基金は、令和4年度で8年目を迎えます。
現在、累計3,693件の申込をいただいています。

※令和3年12月末現在

寄附は、ふるさと納税を活用できます。確定申告無しで、税の寄附金控除を受けられる制度もありますので、お気軽にお問い合わせを！（※制度の活用には条件があります。）

【お問い合わせ先】奈良県立医科大学 総務課
TEL：0744-22-3051（内線：2803）
FAX：0744-29-8987
E-mail：hiyakukikin@narmed-u.ac.jp

未来への飛躍基金HP
<https://www.narmed-u.ac.jp/~hiyakukikin/>

未来への飛躍基金

検索



「奈良医大キャンパスだより」の内容に関する問い合わせやご意見等ございましたら、右記までご連絡ください。

公立大学法人奈良県立医科大学 法人企画部
新キャンパス・施設マネジメント課 キャンパス整備推進係
〒634-8521 奈良県橿原市四条町 840
TEL 0744-22-3051（内線 2802, 2804）
Mail kihonkoso@narmed-u.ac.jp